

12/29 『夢・努力即しあわせ』
ガンバ大阪伝説のスカウトが講演会を開催



▲夢や目標に向かって歩み続けてほしいと生徒たちにメッセージを送る二宮さん

日本のサッカー界においてJリーグ屈指の敏腕スカウトとして知られる二宮博^{ひろし}さんが南宇和高校を訪れ、同校サッカー部員や生徒、城辺中学校生徒などに講演を行いました。

教諭時代にサッカー部の顧問をしていた二宮さんはサッカーを通して愛南町との深い交流があり、「自分がスカウトマンとして活躍できたのは南宇和でサッカーを教えてもらったからだと感じている」と話しました。南宇和サッカーに対する恩返しの気持ちを込めて行われた講演会では、27年間のスカウト人生を振り返りながら二宮さんから見た一流選手たちのサッカーに取り組む姿勢や、強いチーム・選手になるために必要な思考や心がけなどを熱く語りました。

1/11 変化に富んださまざまな図柄
西海公民館でパッチワーク作品を展示



▲ロビーや和室いっぱいに展示されたパッチワーク作品

船越地区で個々にパッチワーク作品を製作している平田^{きよ}紀代さん、吉田^{まさこ}正子さん、吉田^こいち子さんの展示会が西海公民館で開催されました。

公民館で初めて行われた展示会には、紫電改やヒオウギ貝、石垣の里など西海地区を連想させる図柄のタペストリーやバッグ、ぬいぐるみなど数多くの作品が展示されました。繊細な工程を経て一つ一つ丁寧に仕上げられた作品を鑑賞するため、町内から100人近くの来場者が訪れる盛況ぶりに、展示期間を1カ月延長して多くの方に手作りならではの心温まる作品を鑑賞してもらいました。

1/17 役場本庁や各支所・公民館などで配布
鹿島道路株式会社が反射材タスキ230本を寄付



▲より多くの人に反射材タスキを着用してもらえるよう呼び掛けた

町内の国道において経年劣化に伴う路面の凹凸やわだちの発生により、運転の支障や歩道への水跳ねを懸念し、舗装修繕工事を施工した鹿島道路株式会社から、南宇和交通安全協会に対して反射材タスキ230本が寄付されました。

寄付にあたって、鹿島道路株式会社四国支店南予出張所の玉井^{きよのり}清敬さんは、「工事の際に片側規制や夜間作業を実施する必要がある中で、私たちが円滑に工事を進めることができるのは地域住民の皆さまの協力のおかげ」と感謝の気持ちを述べ、たすきを同協会会長の金平^{たかふみ}高文さんに手渡しました。

夕暮れ時や夜間のランナーも多い今の季節、タスキをはじめ反射材グッズを積極的に着用し、交通事故を防ぎましょう。

1/21 冬の味覚が満載 「冬の大特産品市 牡蠣まつり」が開催



愛媛
CATV
動画



▲多くの来場者が愛南のおいしい牡蠣を満喫した

1月21日(土)、22日(日)の両日、南レク御荘公園で「冬の大特産品市 牡蠣まつり」が開催されました。

これは、愛南町観光協会に加盟する事業者らでつくる「冬の大特産品市実行委員会」が初めて実施したもので、「愛南かき」を中心に、ヒオウギ貝やブロッコリー、ポンカンなど町の特産品を販売しました。町内事業者やキッチンカーの出店などもあり、2日間で約5千人が県内外から来場しました。殻付き牡蠣やむき牡蠣の販売、焼き牡蠣や牡蠣飯の店には長蛇の列ができ、主催者の予想を上回る大盛況のイベントとなりました。

※このイベントは「愛南町観光振興等イベント補助金(14ページ掲載)」の補助対象として実施したものです。

地域おこし協力隊 活動日記

誇るべき「ぎょしょく教育」

水産課地域おこし協力隊の柳田亮介りょうすけです。

愛南町に転入して初めての冬を過ごしていますが、住んでいる一本松の寒さや勤務地の船越の風の凄さにびっくり!長らく過ごしてきた松山平野に比べ、自然との距離感の近さを感じています。

さて、ご存知の方も多いと思いますが、町では「ぎょしょく教育」という、町・愛媛大学・漁協や水産関係事業者・小中学校などの教育現場などが「ぎょしょく普及推進協議会」として一丸となって取り組んできた教育プログラムがあります。

「ぎょしょく」というと「魚食」つまり魚を食べて消費を増やそう、という活動が想起されますが、あえてひらがなにしているのには理由があります。「ぎょしょく」の「ぎょ」はもちろん「魚」です。「しょく」については「触=魚に触る・色=魚の特色・職=獲る漁業・殖=育てる漁業・飾=魚の伝統文化・植=魚をめぐる環境・食=魚の味」の七つの漢字が当てられ、魚の生産から消費、さらに生活文化までを含む総合的な学習を意味します。そうして、子供の頃から郷土の魚に誇りや愛着を持ち、将来的な町内水産事業者の担い手不足解消や魚の消費拡大につながるように、といった目的で15年以上にわたって取り組んできました。

私も保育所や幼稚園、小中学校などで行われる「ぎょしょく出前授業」に参加し、魚を触ったり、ゲームをしたり、養殖場や市場の見学をしたり、調理実習では鯛のさばき方のデモンストレーションを行うなど、私自身がぎょしょく教育を楽しみながら子どもたちと一緒に町の魚に対する誇りや愛着を育てています。

現在、小中学校でのぎょしょく教育は「義務ぎょしょく」として取り組んでいますが、これからは「生涯ぎょしょく」が肝になると思っています。老若男女が一緒になって魚の調理をしたり、健康の維持・増進、あるいは生活習慣病の予防・改善のための魚食メニューを考案したり、町の誇る漁業資源を核にしたさまざまな活動によって町をより元気にしていく、その土台づくりに貢献したいと思っています。

